

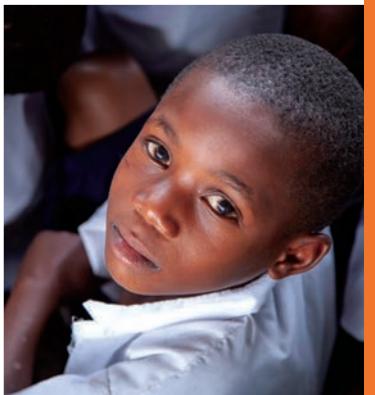


概要



逆境を乗り 越えた成果

2023 年 ECW 年次成果報告書



本出版物について

本報告書は、「教育を後回しにできない基金 (Education Cannot Wait: ECW)」事務局の指導の下、ECW 執行委員会、助成金受領団体、および ECW ハイレベル運営グループの構成員の協力を得て作成された、2023 年 ECW 年次成果報告書の要約です。本書は 2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの期間を対象とし、本報告書に表明されている見解は著者のものであり、ドナー機関や国連加盟国を含む国連の見解を必ずしも反映するものではありません。また、地図で使用される境界線、地名および名称は、国連、ECW、またはパートナー諸国による公式の承認あるいは承諾を意味するものではありません。本報告書におけるすべての数値は、特に明記されていない限り米ドルで表示されています。

2024 年 8 月 Education Cannot Wait



教育を後回しにはできない基金 (Education Cannot Wait: ECW) について

教育を後回しにはできない基金 (ECW) は、緊急時および長期化する危機下の教育に特化した国連のグローバル基金です。私たちは、難民や国内避難民、その他の危機の影響を受けた少女・少年が誰一人取り残されることなく、質の高い教育が受けられるように支援しています。ECW は多国間システムを通じて、危機下での対応スピードを高めるとともに、複数年にわたるプログラムを通じて緊急支援と長期的な支援を結びつける取り組みを行っています。ECW は、支援の効率性を高め、連携不足を解消するため、政府・官民ドナー・国連機関・市民社会組織・その他の人道支援・開発援助関係者との緊密なパートナーシップの下支援しています。ECW はより多くの脆弱な立場の子どもや若者を支援するため、官民のドナーに対して支援の拡大を緊急に訴えています。

フォロー：

@EduCannotWait



詳細は www.educationcannotwait.org/ でご覧いただけます。

お問い合わせ：info@un-ecw.org

表紙写真 (左から右、上から下) :

- © UNICEF/Awad : スーダン、14 歳のマラズは家族と共に国内避難民のための仮設避難所で生活しています。
- © UNICEF/Joseph : ハイチ、12 歳のジェプテは 5 年生です。彼は人々を助けるために医者になり、家族を支えたいと考えています。
- © UNICEF/Bidel : アフガニスタン、幼い少女が子どもにやさしい空間の外でノートを手に持っています。
- © UNICEF/Satu : バングラデシュ、5 歳のファリヤは、腕を失ったという困難にもかかわらず、就学前学校に通っています。
- © UNICEF/El Baba : ガザ地区のハーン・ユニス、10 歳のサマが破壊された街の瓦礫の中を歩いています。
- © UNICEF/Filippov : ウクライナ、6 歳のミラナは幼稚園に通うことができません。彼女は友達と遊んだゲームや美術の授業が恋しいです。
- © UNICEF/Vigné : コンゴ民主共和国北キヴ州、避難民の少年が一時的な学習スペースに通っています。
- © UNICEF/Chol : 南スーダンのジュバ、教室内で笑顔で写真に写る生徒。

目次

概要	3
ECW とそのパートナーは、危機的な状況下にある子どもたちの教育参加、 学習、およびウェルビーイングを向上させました	4
ECW とそのパートナーは、緊急時・長期化する危機下の教育能力とシステムを 強化しました	7
ECW とそのパートナーは、緊急時・長期化する危機下の教育 (EiEPC) のための 資金の増加と質の向上に貢献しました	9
2023 年の主な成果	10
2023 年に ECW のプログラムによって支援された子どもの数 (国別)	12
スコアカード方式	14
成果指標評価スコアカード	15



概要

「教育を後回しにできない基金 (ECW)」は、2023 年の目標達成に向けて大きな一步を踏み出し、緊急事態や長期化する危機に直面している世界中の少年と少女たちに、包摶的で公正な質の高い教育を提供するための取り組みを進めてきました。2023 年には、ECW の新戦略計画 (2023 年-2026 年) の最初の 1 年として、「第一次緊急対応 (First Emergency Response: FER)」と「複数年レジリエンスプログラム (Multi-Year Resilience Programme: MYRP)」資金を通じ、560 万人の子どもたち¹を支援しました。これは、4 年間で 2,000 万人近くの子どもを支援するという ECW の目標の 29% に相当します。これにより、2017 年に活動を開始してから ECW が支援した子どもの総数は 1,100 万人を超みました。

ECW は緊急事態や長期化する危機の影響を受けた最も脆弱で教育支援を必要とする子どもたちに焦点を当ててきました。危機には武力紛争、強制的な移動、気候変動による災害の影響も含まれます。2023 年は前年までと比べ、より多くの少女 (51%)、国内避難民の子ども (17%)、難民の子ども (22%) への支援を行いました。また初等教育学齢層 (70%) と比べて、中等教育学齢層 (23%) と未就学年齢層 (7%) の子どもへの支援も増加しました。

2023 年に支援された子どもたちのうち、その 5 人に 1 人にあたる 120 万人 (55% が少女) は、緊急事態または深刻化する危機に際して、FER を通じて支援を受けました。一方、長期的な危機状況下では、およそ 440 万人の子どもが MYRP を通じた支援を受け、それは支援された子どもの 5 人に 4 人 (50% が少女) にあたります (戦略計画指標 1 および 2)。教育に対する複合的な脅威として、

ECW の気候変動の影響への対応は増加しています。例えば気候変動に起因する危機的な緊急事態により、FER を通じた支援を受けた子どもの割合は、2022 年の 14% から 2023 年に 27% に増加しました。

現在の進捗ペースを維持すれば、2026 年末までに MYRP は 760 万人の子どもを支援する目標を達成する見込みであるものの、FER は目標である 1,190 万人の子どもの 27% にしか支援を行うことできないでしょう。FER を通じた支援人数の不足の要因として子ども 1 人当たりのプログラム費用の増加が挙げられ、2023 年には子ども 1 人当たりに必要な費用が 32 ドルから 53 ドルになりました。よって、より質の高い教育を長期にわたって提供できるものの、対象となる子どもの数が目標を下回る状況となっています。また、ECW の慢性的な資金不足が、さらなる子どもたちの支援に向けた資金配分の拡大を妨げています。

¹ ECW は「支援された子ども」を、あらゆる多様性を持つ 3 歳から 18 歳の子どもと青少年・少女で、ECW の支援を直接的または中間的に受けた数と定義しています。



12歳のナクルチェルはエチオピアの教室でノートに書き込んでいます。この地域では、ECWが支援する加速学習プログラムが実施されており、持続的干ばつや継続的な紛争などにより学習機会を長年失ってきたナクルチェルのような子どもたちが、教育の遅れを取り戻し、同年代の仲間とともに正規の学校に通えるよう支援しています。

ECWとそのパートナーは、危機的な状況下にある子どもたちの教育参加、学習、およびウェルビーイングを向上させました

ECWは、危機に直面するすべての子どもと青少年・少女が質の高い教育を受け、積極的に学習できるよう取り組んでいます。2023年、ECWは戦略計画の結果を測る8つの指標のうち5つで、教育への参加、継続性、学習に関する目標の達成に向けた進展を遂げました。この進展と支援された子どもの数が増加していることは、危機に直面する子どもの教育ニーズに対応する取り組みが着実に改善されていることを示しています。



教育参加

ECWのプログラムの95% (FERの93%、MYRPの96%)において、学校への就学または出席が改善しました(指標3)。これらプログラムのうち、72%ではジェンダー公正における進展が見られました。すなわち、男女ともに就学または出席が向上し、ジェンダー平等に向けた改善が見られました。特に、ナイジェリア、パキスタン、ソマリアのプログラムでは、紛争、避難、気候変動の影響といった課題にもかかわらず、子どものフォーマル教育への参加が大幅に増加しました。



5人のうち4人

440万人の子ども(50%が女子)が、長期化した危機状況下でMYRPを通じて支援されました。



教育の継続性

ノンフォーマル教育からフォーマル教育への移行と教育段階の引き上げを支援する取り組みは大きな成果を挙げ、プログラムのおよそ 86%で、フォーマル教育への移行率は 60%を超える（[指標5](#)）。一方で、教育の継続率と修了率はさらなる取り組みが必要な分野です。目標値 90%（[指標4](#)）に対し、継続率または修了率が 75%以上を達成したのは報告されたプログラム全体のわずか 53%でした。この不足は、深刻化した危機により、初等・中等教育の修了が世界的な課題になっている状況を反映しています。多くの子どもたちは、学費やハイステーク試験などが要因となり学校に通えていませんが、緊急時・長期化する危機状況下にいる子どもは、介入なしには学校に戻ることや教育を完全に修了することができないかもしれません。



学習

長期化した危機環境におけるプログラムは、学習成果の向上を支援し、ECW のホリスティック教育へのコミットメントを反映しています。学習成果を体系的にモニタリング・報告しているプログラムの数は依然として限定的です。しかし、学習成果をモニタリング可能な MYRP のうち、80%は子どもの学力習得の改善（[指標6](#)）を報告し、72%は子どもの社会情動的学習またはウェルビーイング、あるいはその両方の改善が報告されました（[指標7](#)）。ECW は、複数年のプログラムを通じて学習の向上を継続するとともに、危機状況下での学習成果に関するより包括的なデータ収集をパートナーと協力して推進することにコミットしています。

ECW の戦略計画は、ジェンダー規範と教育に対する態度を改善するという意欲的な目標を設定しています。ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラミングを通じて、FER と MYRP は女子の教育への公正なアクセスと学習機会の保障を目指しています。しかし、ジェンダー規範や態度における変化を測定することは依然として困難であり、ウガンダで行われた1つのプログラムでのみポジティブな変化が示されています（[指標8](#)）。今後、ECW は実施パートナーと連携し、ジェンダー規範や態度の変化の測定をより的確に測定・追跡するためのツールの統合を図っていきます。

これら全ての分野で成果を上げるため、ECW のプログラムは一貫した「子どもの全人的なアプローチ」のひとつとして、多様な介入手法を組み合わせました。緊急時の教育のための機関間ネットワーク（INEE）の最低基準²に沿い、これらの介入は、安全で包摂的な学習機会のアクセスの向上、より効果的で包摂的な学習の提供、教師と教育関係者の支援、およびより強固で包摂的な教育政策の促進に焦点を当てました。ECW とそのパートナーは、安全な学習場と水・衛生設備を建設・修復し、教材を配布し、教育のための現金支援を提供し、教師と教育関係者の能力向上のための活動を支援しました。学校運営委員会への保護者とコミュニティの参画を促進し、学校における災害対策措置の実施にも関与しました。



5人に1人

2023 年に 120 万人の子ども（55% が女子）が、緊急事態または深刻化した危機下において FER を通じた支援を受けました。

2 「INEE 教育のための最低基準」は、緊急時における教育の質向上を目的としたガイドラインです。教育の備え、対応、復旧を強化するための 19 の基準、主要な行動と指針を含み、安全で適切な学習機会へのアクセスを確保します。

少年や少女、避難中の学習者、障害のある子どものそれぞれの特別なニーズを踏まえ、ECW とそのパートナーは学校における行動規範の実施とリフェラルの仕組みの整備を支援し、子どもの保護、ジェンダーに基づく暴力の予防、心理社会的支援、インクルーシブ教育の分野で専門的な支援を提供しました。さらに、障害のある子ども向けに補助学習機器、少女向けに月経衛生用品を提供し、学校給食支援を促進しました。

教育から排除されるリスクが高い学習者を支援するため、ECW は二重アプローチ (two-track approach) を採用し、すべての介入において障害のある人々の包摶を主流化するとともに、学習者の個別ニーズに対応するための重点的な取り組みも実施しました。難民と国内避難民に対して、ECW は学習機会へのアクセスを促進し、国家の教育システムへの包摶を推進し、心理的支援を提供し、カリキュラムを適応させ、財政的制約を軽減しました。障害のある子どもには、教育へのアクセスを改善し、適応された教材を提供し、コミュニティの意識向上を図り、子どもの包括的なウェルビーイングを確保しました。そして思春期の少女の教育へのアクセスと学習を支援するために、ECW は女性教師の採用と支援を実施し、ジェンダーに基づく暴力の問題に対応し、コミュニティの参加を促すことで女子教育を促進しました。

ECW のプログラムでは、これらの介入を多様な方法で実施しました。本報告書のために実施された 2023 年のプ

ログラム成果の統合分析により、成果達成に不可欠であつたいくつかの共通する促進要因が各プログラムに見られたことが明らかになりました。

- ・ **個別化されたフォーマル教育とノンフォーマル教育支援策**：文脈に応じた学習者のニーズ重視の教育を促進するための、国の優先課題に整合した既存のプログラムと補完的な役割を果たしました。
- ・ **柔軟かつ適応可能なプログラム設計**：例えば気候変動による緊急事態において、状況の変化するニーズに迅速に対応する ECW の能力を高めました。
- ・ **教師に対する包括的でジェンダーに応じた支援**：教師の能力向上・採用・定着・自律性・動機付け・ウェルビーイングの要素を組み込んだ支援を行いました。教師育成の取り組みは、単なる研修や金銭的報酬にとどまらず、新たな教師の確保と既存の教師の定着にもつながりました。
- ・ **地域関係者の参画**：安全で保護的かつ、誰もがアクセスでき、学びを支える環境を提供する教育プログラムの推進・管理において、保護者、介護者、地域のリーダーを含む地域の関係者が参画しました。
- ・ **複数のアクターとのセクターを横断した協働**：保護、水と衛生、栄養、災害管理分野の関係者を含みます。



560 万人

ECW の新戦略計画（2023 年 – 2026 年）の最初の 1 年間で、ECW は 560 万の子どもたちに支援を行いました。



ECW とそのパートナーは、緊急時・長期化する危機下の教育能力とシステムを強化しました

危機の影響を受けた子どもたちにより良い結果をもたらすためには、彼らのニーズに対応するための強固な緊急時および長期化する危機下の教育 (EiEPC) システムと能力が不可欠です。ECW は、3つの分野に焦点を当て、国およびグローバルレベルの双方でシステムと能力強化を優先しています：(1) 人道支援—開発ネクサスにおける調整の改善、(2) ローカライゼーションとコミュニティ参画の強化、(3) データと証拠システムの強化。

連携の調整：

EiEPC 関係者の支援の整合性を向上するため、ECW の MYRP を通じてネクサスの調整改善 (指標 11) で進展を遂げ、データと証拠システムの協調を強化しました (指標 17)。ECW の「加速のための基金 (Acceleration Facility: AF)」は、グローバル教育クラスター (GEC)、INEE、国連教育科学文化機関 (UNESCO) などの主要なグローバル EiEPC パートナーを支援することで、この進歩に貢献しました。

今後、ECW の被助成団体は、新たな MYRP の設計と実施に組み込まれたツールという形で追加的な支援を受け、長期化する危機状況においてネクサス横断的な取り組みを実践するためにツールを使用することができます。



ローカライゼーション：

グランド・バーゲン (Grand Bargain) のコミットメントに沿い、ローカライゼーションの推進、危機状況の影響を受ける人々の参加機会の確保は、ECW とそのパートナーにとって 2023 年の最優先課題でした。FER および MYRP は、現地および国レベルの関係者と危機状況に影響を受けた人々を、プログラムサイクル全体を通じて意図的に関与させることで人々の参画の促進に貢献しました（[指標 14](#)）。さらに、2023 年には、ECW 資金の FER および MYRP への配分額のうち、平均 24% が現地および国レベルの関係者に配分されました（[指標 12](#)）。また ECW は新たな MYRP コンソーシアムモデルを通じてローカライゼーションを強化することを目指しています。このモデルには、専用資金の確保、プログラムの設計と実施への地域関係者の参画、現地および国レベルの関係者に対する継続的な能力強化支援が含まれます。



データと証拠：

ECW はデータと証拠システムの強化および学習文化の促進にコミットしています。2023 年、すべての MYRP は教育ニーズに関する質の高い証拠に基づいて策定されました（[指標 16](#)）。また、FER と MYRP の 84% において教育参加成果についてモニタリングされました（[指標 15A](#)）。

しかし、学習成果の測定は、EiEPC の文脈において依然として課題が残ります。期限内にデータが入手可能な MYRP の 80% において学習成果データをモニタリングするという目標値に対し、MYRP の 64%（うち 39% のジェンダー別データを含む）において、期限内に報告されました（[指標 15B](#)）。さらに、もともと異なる目的でデータが収集されていることにより、入手可能なデータがプログラムパートナーの学習ニーズを満たすために有用でないことが頻繁にあります。これに対応し、ECW は国レベルのパートナー団体のデータ作成に対する努力を支援することを優先し、何が、どのように、誰のために機能するのかについて意味のある分析を可能にするような成果のモニタリング（特に学習成果について）の実施に焦点を当てます。

世界レベルでは、ECW とそのパートナーは、EiEPC に関する知識の成果物を生み出すことにおいて大きな進歩を遂げています。今後数年間の優先課題は、プログラム間の相互学習を促進し支援の仕方に影響を与えるため、これらの成果物の共有と活用を促進することです（[指標 25](#)）。ECW は、新たなエビデンスや知識に整合するように、ECW の支援・推進した政策、アプローチ、基準のグローバルおよび地域レベルにおける採用を最大限に促進するため、戦略的パートナーシップを活用します（[指標 23](#)）。



ECW が支援する中央アフリカ共和国の視覚障害児のための訓練センターで、視覚障害のある少年が点字の読み方を学んでいます。ECW の同国での資金援助により、紛争や危機の影響を受けた子どもたちが、安全で質の高い教育を受ける機会が増えています。

ECW とそのパートナーは、EiEPC のための資金の増加と質の向上に貢献しました

ECW は、グローバル基金および政策提言機関として、EiEPC を優先化し、資金増加と質向上を通じ危機下で教育支援を必要とする 2 億 2,400 万人の子どもと青少年・少女に質の高い教育を提供するための政治的コミットメントの強化にパートナー団体とともに努めています。

世界的に援助が削減の傾向にあるにもかかわらず、ECW は 2023 年–2026 年戦略計画の最初の年度で 9 億ドルを調達しました。これは、資金調達目標である 15 億ドルの 60% に相当します（[指標 22](#)）。この大きな成果は、ECW が戦略計画の目標達成に向け着実に進捗していることを示し、EiEPC への対応に必要な援助の主要な部分を占めています。

しかし、緊急時の教育支援に関する資金提供の全体像を見ると、人道支援における教育援助資金の総額は、この 10 年で初めて 3 % 縮小し、2022 年の 12 億ドルから 2023 年の 11 億 7 千万ドルに減少しました（[指標 18A](#)）。このうち、忘れられた危機状況にある国々に割り当てられた資金はわずか 11 % に留まりました（[指標 18B](#)）。同様に、教育分野の人道支援要請額に占める援助資金の割合は、2022 年の 33 % から 2023 年には 29 % に減少しました。ただし、これは 2021 年の記録的な低水準である 20 % を依然として大幅に上回っています（[指標 20](#)）。

支援のニーズが増えているにもかかわらず、財政削減の影響により、人道支援分野ではかつてない規模の資金不足が生じており、深刻な対応が求められています。2024 年のグローバル人道状況報告書は、人道支援要請に含める対象を定める「境界設定 (boundary setting)」と呼ばれるより厳格なアプローチを採用しました。これにより、教育分野に対する支援要請額は数年ぶりに効果的に減少し、2023 年の 37 億ドルから 2024 年には 30 億 5 千万ドルへと、6 億 8 千万ドル（18 %）削減されました。

このような状況を背景に、民間セクターの投資家、財団などとの革新的なパートナーシップを模索し、ECW 信託

基金およびより広範な EiEPC セクターのための追加資金を調達するため、ECW はパートナーと協働していきます。ECW は、ECW とそのパートナーの成果に関するエビデンスに基づくメッセージ発信を促進するとともに、EiEPC の動向とニーズに関する意識向上のため、力強い政策提言と、連携・ネットワークの強化を継続します。この取り組みは、過去数年間で達成された進歩の逆転を防止し、EiEPC への資金拠出を周縁的な位置づけから主要な資金配分の優先事項へと引き上げることを目的に、主要な二国間ドナーに焦点を当て進められます。

グローバルな資金制約を踏まえ、ECW はプログラム全体の構成の最適化を目指します。これには、FER、MYRP、AF 投資のより焦点を絞った配分を実施し、他の二国間および多国間資金源とのシナジーを引き出すことを含みます。

FER はスピードと柔軟性を重視し、現地関係者の包摂性を確保しながら、急性の危機における資金拠出にかかる期間を 2023 年の（人道支援要請後）平均 20 週間から、目標値である 12 週間への短縮を目指します（[指標 21](#)）。MYRP は引き続き、長期化する危機に対する複数年にわたる予測可能な資金提供の主要な手段として位置づけられ、最も大きな効果を発揮できる限られた国々を対象とします。人道支援と開発のネクサスを強化することで、ECW は MYRP を他の教育投資と整合させ（[指標 9](#)）、EiEPC 目標に向けた連携による成果を最大化します。AF を通じた戦略的イニシアチブは、実施パートナーとステークホルダーの能力とシステムを強化し、支援の方法を改善します。

ハイライト 2023

51%
女子



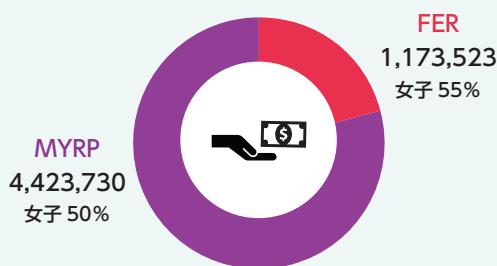
5,597,253

支援された子どもと青少年・少女の数

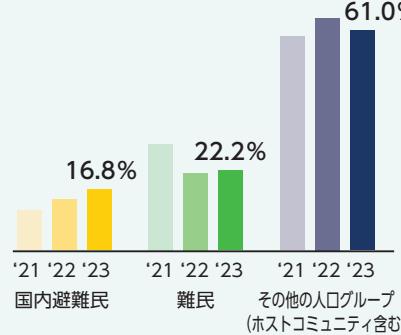
2023年に支援された560万人の子どもと青少年・少女のうち、440万人(4,423,730人、うち女子50%)はMYRPを通じて、120万人(1,173,523人、うち女子55%)はFERを通じて支援されました。

前年と比較して、ECWはより多くの避難民の学習者や、異なる教育レベルにわたる多様な子どもたちに支援を届けています。

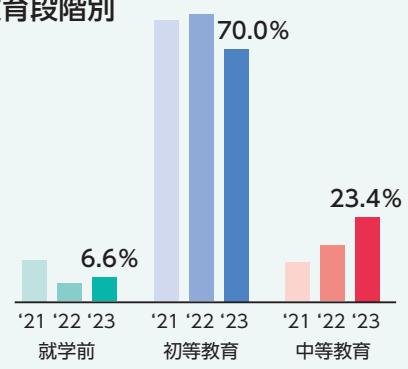
助成金の形態別



受益者の種類別



教育段階別



ECW 2023の結果概要：



13,003室の教室

を建設または修復した



4,408,874人の保護者

および地域住民を動員した
(女性50%)



83,461人の子ども

に現金または教育バウチャーを配布した
(女子61%)



37,442個の教材

を教室に配布した



23,449人の教師

が採用または経済的な支援を受けた
(女性45%)



335,169人の学習者

に学校給食を提供した
(女子50%)



2,170,592 人の学習者

に学習教材を提供した
(女子 53%)



125,094 人の思春期の女子

に月経衛生用品を配布した



107,613 人の教師

および教育関係者がさまざま
なテーマに関する教
師研修を受講した
(女性 59%)



11,570 人の障害のある子ども

が補助機器と学習支援ツール
を受け取った
(女子 54%)



6,358 個の学習 スペース

に学校運営委員会または
保護者・教職員会が設置
された



2,101 個の学習 スペース

により優れた災害リスク削
減システム(DRR システム)
を備えた



3,920 個の学習 スペース

に精神保健および心理社
会的支援を行った



教育へのアクセス と出席

が 95% のプログラムで
向上した



移行率

86 % のプログラムで
ノンフォーマル教育か
らフォーマル教育への
移行率が 60% 以上



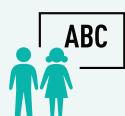
教育の継続率と 修了率

53 % のプログラムで
教育の継続率と修了
率が 75% 以上



学力と社会・ 情動的学習

MYRP の 80 % で学力
改善、MYRP の 72 %
で社会・情動的学習
が改善した



86 のプログラム

が 2023 年に実施されている
(26 力国で 31 の MYRP,
27 の FER と 28 の AF)



32 力国

で支援されている



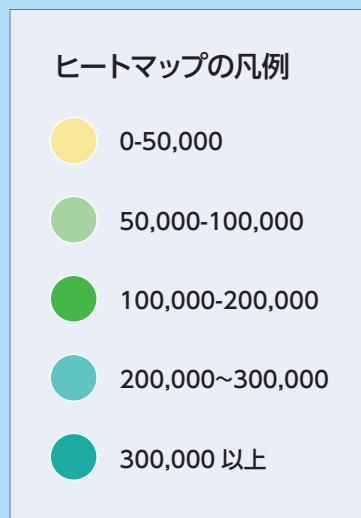
28 の被助成団体

(複数の国やプログラムで活
動している場合、重複を除
いた被助成団体数)

³ 詳細については「スコアカード手法」を参照

2023年に ECW のプログラムによって支援された子どもの数（国別）

地理的 地図は、2023年に実施されたプログラムにより支援を受けた子どもの総数⁴を国別に示しています。2023年に実施中のプログラム⁵によるものです。これには、26カ国における27のFER、28のAF助成金およびMYRPが含まれます。

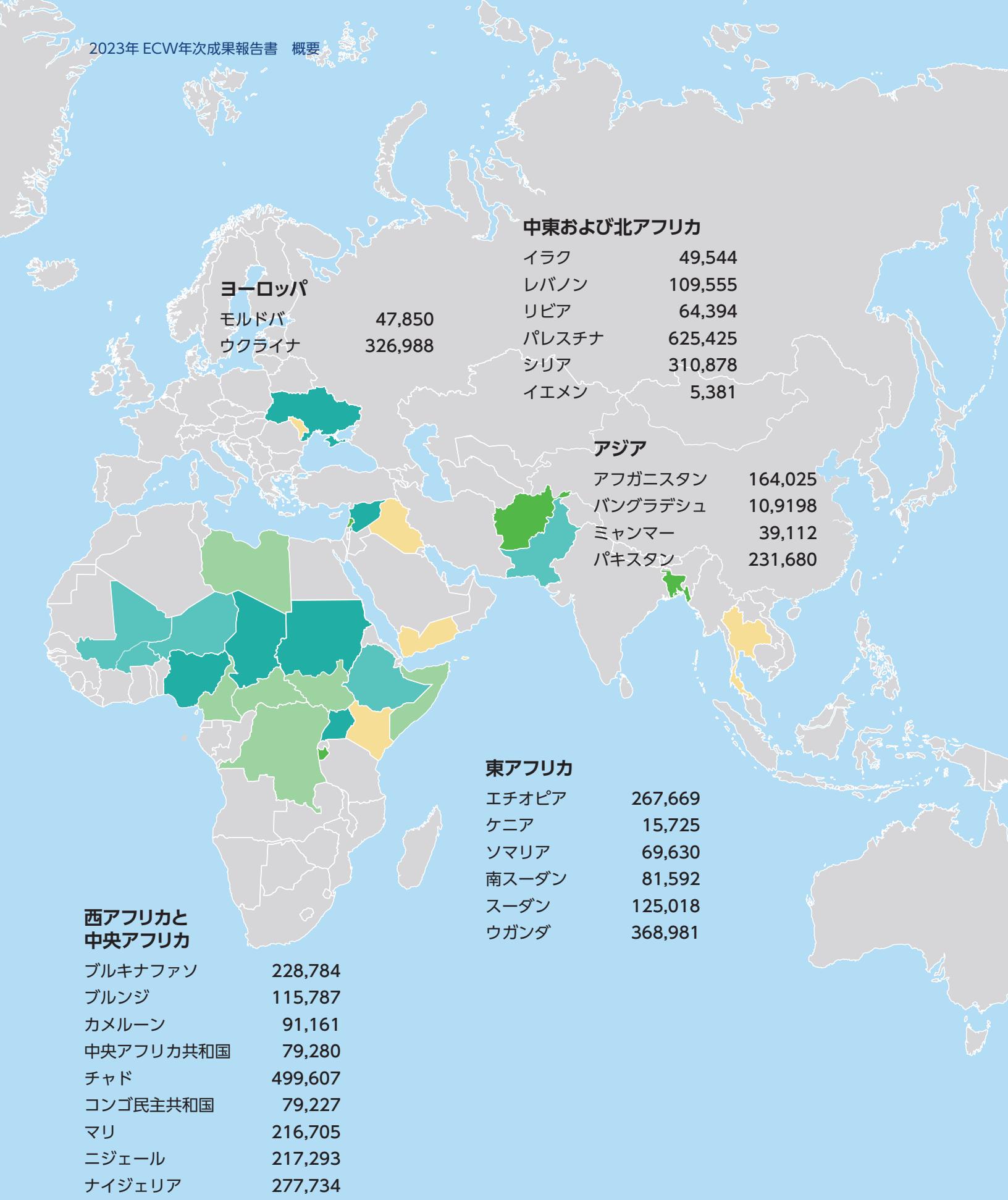


南米とカリブ海地域

コロンビア	98,236
エクアドル	217,627
ハイチ	428,822
ペルー	34,345

注：この地図で使用されている境界線、名称、および表記は、国連、ECW、またはパートナー国による公式な承認または承諾を意味するものではありません。

- 4 支援が到達した子どもの数は累積値。したがって、地図に表示されている2023年に実施中のプログラムによって到達した子どもの数は総数。
- 5 プログラムは複数の助成金から構成される場合があります。「実施された」とは、特定の年（例：2023年）に実施されるプログラムを指し、その年全体またはその一部において実施される場合を含む。



スコアカード方式

今年の年次成果報告書における指標の報告において、ECW はスコアカード方式を導入し、指標目標への進捗状況を次のように分類しています：



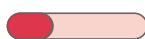
完了：2023年に指標目標を達成



2026年末までに目標を達成する見込み（現在の予測に基づく）



2026年末までに目標を達成できないリスクがある（現在の予測に基づく）



2026年末までに目標を達成する見込みがない（現在の予測に基づく）



データ不足または方法論上の問題により、進捗の分類不能

すべてのプログラムがすべての指標に関するデータを提供できるわけではなく、また提供が期待されているわけでもありません。これは、プログラムの設計や期間、および ECW への進捗報告時点でのプログラムの実施段階に依存します。また、報告データがすべての指標の算出に必要な形式や十分な質を満たしているわけでもありません。

指標3～8の結果の信頼性評価において、本報告書では、エビデンス・ベースの規模に関する情報を提供しています。また、変化を評価することを目的とした指標については、エビデンス・ベースの強度に関する情報も併せて提示しています。

本報告書では、以下の点を区別しています：

- **変化の確固たる証拠**：2つ以上の比較可能なデータポイントが提供され、時間経過に伴う成果の変化を評価することが可能
- **部分的な変化の証拠**：1つのデータポイントが提供され、過去の状況との比較が可能

変化に関して確かに、または一部のエビデンスが確認されたプログラムの総数のうち、本報告書では部分的または確実な証拠により増加が裏付けられた事例のみを報告しています。



オンラインの方法論的付録では、
指標目標に対する進捗評価に用いられた
データと方法論の詳細が記載されており、併せて前提条件や制約事項についても概説しています。

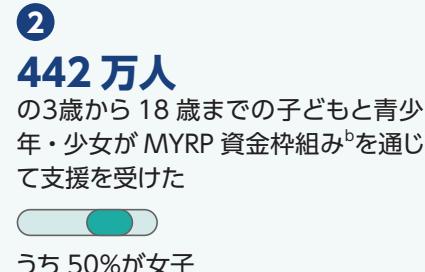
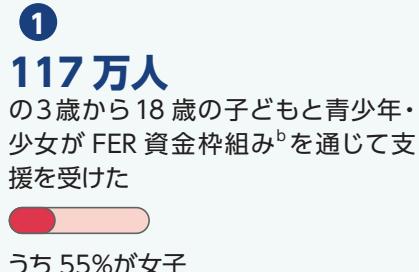
成果指標評価スコアカード

2023 年概要



2023 年に ECW は資金提供の形態を通じて 560 万人の子ども（うち 51%が女子）に支援を行いました。

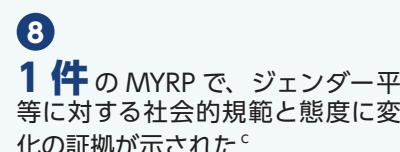
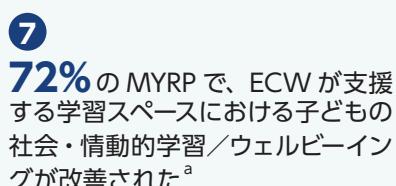
国別の子どもと若者の成果



子どもたちは ECW が支援する教育機会に参加しています



…そして、学業面、社会面、感情面のスキルを向上させています。



進捗バーの凡例^b

	完了		遅延
	進行中		未分類
	危険		



a 指標の言語には、表現に対して提案された修正が反映されている。

b 進捗は、2023 年以前の基準データが利用可能な場合、潜在的な累積効果の調整を行わずに年間変化率を一定と仮定した定量的な推計を用いて評価された。基準データが利用できない場合は、定性的に評価された。解釈と可視化を容易にするため、本報告書ではカテゴリーごとに標準化された進捗バーが使用されている。

c サンプルサイズが小さいため、この指標の進捗評価は行えなかった。

d 2023 年 ECW 年次成果報告書の別紙 1 を参照。



ECW とパートナーは連携した資金の動員を行いましたが、EiEPC への資金が優先的に配分されるよう、さらなる取り組みが必要です。

9

3900 万ドル の追加の連携資金が EiEPC に動員された^a



10

6.8% の資金が資金要請総額に対して EiE に必要とされた



11

6 件 の MYRP で、ネクサスの改善に関する証拠が示された^a



調整、ローカライゼーション、説明責任、データおよびエビデンスのシステムの改善を通じて、ネクサスにおける整合性の強化に向けた有望な進展が見られました。

12

24% の FER/MYRP 資金が、国内または現地パートナーに移管された



13

16 件 の FER/MYRP で、国内および現地パートナーの関与の質の向上が確認された



14

15 件 の FER/MYRP で、危機の影響を受けた人々の参加の質の向上が確認された



15

a) **84%** b) **39%**
FER/MYRP は、a) 教育参加と b)
学習成果 (MYRP のみ) のモニタリ
ングに関するデータを有している



16

100% の MYRP が、ニーズに応
するより質の高いエビデンスに基づ
いています



17

7 件 の MYRPs が、危機および
リスクに関連するデータの調整、整
合化、制度化のためのシステムを改
善しました



ECW は、困難なグローバルな支援環境下で資金の動員と配分において重要な成果を上げてきましたが、目標を達成するためには協調した取り組みが必要です。

18A

11 億 7000 万ドル

EiEPC の年間総援助資金



18B

1億 3000 万ドル

「忘れられた危機」に対する EiEPC
の年間総資金



19

4.5%

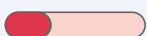
セクター別人道支援資金のうち EiE に
対する援助資金



20

29%

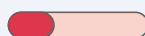
EiE 要請資金額に占める EiE 援助資
金の割合



21

14%

資金要請日から 12 週間以内に拠出
された FER の割合^a



22

9億 200 万ドル

ECW 信託基金のために動員された額



25

a) **中程度** b) **限定的**

ECW によって支援された知識成果物が (a) 作成され、
(b) 共有され、(c) 活用されている程度^e



ECW 戰略計画の1年目に、ECW とパートナーはグローバル公共財を作成した。計画の今後の数年において、これらの共有と活用を確実にする必要がある。



e 指標 23、24、25c のデータは、まだ決定されていない。

教育を後回しにはできない基金 (Education Cannot Wait: ECW) について

教育を後回しにはできない基金 (ECW) は、緊急時および長期化する危機下の教育に特化した国連のグローバル基金です。私たちは、難民や国内避難民、その他の危機の影響を受けた少女・少年が誰一人取り残されることなく、質の高い教育が受けられるように支援しています。ECW は多国間システムを通じて、危機下での対応スピードを高めるとともに、複数年にわたるプログラムを通じて緊急支援と長期的な支援を結びつける取り組みを行っています。

ECW は、支援の効率性を高め、連携不足を解消するため、政府・官民ドナー・国連機関・市民社会組織・その他の人道支援・開発援助関係者との緊密なパートナーシップの下支援しています。ECW はより多くの脆弱な立場の子どもや若者を支援するため、官民のドナーに対して支援の拡大を緊急に訴えています。

詳細は www.educationcannotwait.org/ でご覧いただけます。

お問い合わせ : info@un-ecw.org

フォロー :

@EduCannotWait

